■広報いわむろ 第三二二号 平成元年（一九八九年）二月一日発行（毎月一回一日発行）■発行 岩室村役場■編集 総務課■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇（〒九五三—〇一）■☎〇二五六—八二—四一一一（代）■印刷 北洋印刷㈱

シリーズ 11

白鳥（しろとり）

「白鳥伝説」の残るまち

今月の「おじゃします——地域情報ネットワーク」は、戸数が八戸と村内では一番小さい地区で、地区名が「白鳥（しろとり）」と美しい響きをもつ白鳥地区におじゃましてみました。

白鳥地区は、村内の中央部に位置する集落で、戸数が八戸と村内でも一番戸数の少ない地区で、周囲を水田地帯に囲まれた静かな純農村集落です。

この白鳥地区、地区名から受ける印象はとても良く、たぶん名前からしてその昔、ハクチョウが飛来したんだなあと考える人も多いはず。そこで、まず最初に地区名の由来などについてお聞きしてみました。

村内で一番小さな地区といっても白鳥神社は立派なもの

「いやあ、ここの〝白鳥〟という地区名、はっきりした由来は残っていないんですよ。でも、昔からの言い伝えによると、その昔、ある王子が四～五歳になっても言葉がしゃべれずにいたのが、ある時、この地にハクチョウが飛来し、そのハクチョウをみた王子があまりの美しさに〝あの鳥は何だ〟と口をきいたことからこの地が〝白鳥〟と言われるようになったとの言い伝え？はありますね」と地区名の由来を話す区長の堀越さん。ここの〝白鳥〟という地区名、ほんとうに誰でもが心地よい響きを憶える地区名ですね。

ところでこの白鳥地区。以前は横曽根地区に含まれていましたが、昭和二十五年に分村して一集落として誕生しました。

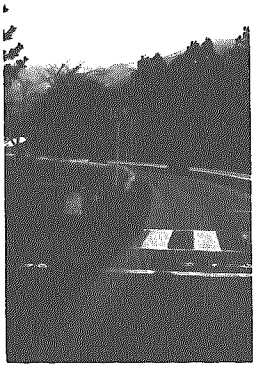
「ここ白鳥地区は、横曽根地区と分かれて一集落として誕生してから、ことしで三十九年を迎えます。小さな地区ながらいろいろなことがありました。その中の一つに昭和三十一年に起きた弥彦事件。これは弥彦神社へ初詣に出かけた地区民が事故に遭ったもので、記憶にあるかたも多いと思います。当時は三人もの大黒柱を失うという悲惨な事故で、それは大変なことでした。それからもう三十年余り。でもいまはもう大丈夫、みなさん立派な後継者が育ちましたので、これからが楽しみですね」と当時を思い浮べ語る堀越さん。

こんな小さな地区にそんな大きな出来事のあった白鳥地区。そんな苦い経験をもつ地区民も今では後継者も育ち前途洋々とのこと。それに地区民同士のつながりも、それ以来ますます強く固いものになってきたといいます。

「白鳥は戸数も少なく、春、秋の祭りを除くとこれといった行事や催し物などはないんですが、地区内のまとまりだけは自慢できますね。それに最近では、若い人やお母さんがたを中心により一層つながりが深まってきたようです。ホント、地区内の若い人たちをみると、みんなやる気満々という感じがひしひしと感じられ、頼もしいですよ」と次代を担う若者たちの成長を喜ぶ堀越区長さん。

戸数が八戸とほんとうに小さな地区ながらいま大きな躍動感が感じられる白鳥地区。それに地区民一人ひとりが実に地区思いである、とも自慢する区長さん。これからがほんとうに楽しみな白鳥地区です。

白鳥区長
堀越徳治（ほりこしとくじ）さん
（53歳）



全国に24～25の字名があるという白鳥の地名

白鳥ミニデータ

人口と世帯	
人口	36人
男	15
女	21
世帯数	8

（昭和64年1月1日現在）

編集後記

■今年は暖冬で雪がほとんど降らず、ほんとうに暖かく過ごしやすいですね。ひょっとして、このまま冬が終わってしまうのでは？と思うほど。■でもこの雪、冬の風物詩として子供やこの雪を生活の糧としている人たちにとっては、降らないと困るものではないでしょうか。それに何といっても、この雪、生活用水の源として欠かせないもの。雪はじゃまものどころか、天からの贈り物です。■でもやはり雪はいやだ、と思う人が多いはず。降るなら山間部に降ってほしいものですね。（こ）

■まったくどうなっているのだろう、今年の天気は…。一月に四月下旬の気候とあっては、眠ったばかりの木や虫たちもさぞかし睡眠不足なのではないかな？■ところで、九ページでご紹介した「お誕生日おめでとう」——紙面の都合で募集要項的説明がしてありませんでしたが、ぜひ本紙を使って（皆さんの広報です）子供たちの成長記録の一ページとして応募してみませんか。■毎月二人のお子さんをちょっとした感想やエピソードでご紹介しますので、お母さん！はずかしがらずにご連絡ください。（み）